

早期景気観測調査

【6-7月期 調査結果概要報告書】

平成26年6月



甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成26年7月15日(火)～31日(木)
4. 調査対象： 当所会員157事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 有効回答数： 119件
7. 有効回答率： 75.7%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果概要

【6－7月期の動き】

業況DIは3期連続で悪化したが、売上、採算は3期ぶりに、従業員は2期ぶりに改善した。向こう3カ月程度の先行については、業況DIは悪化、売上、採算は改善する見通しである。

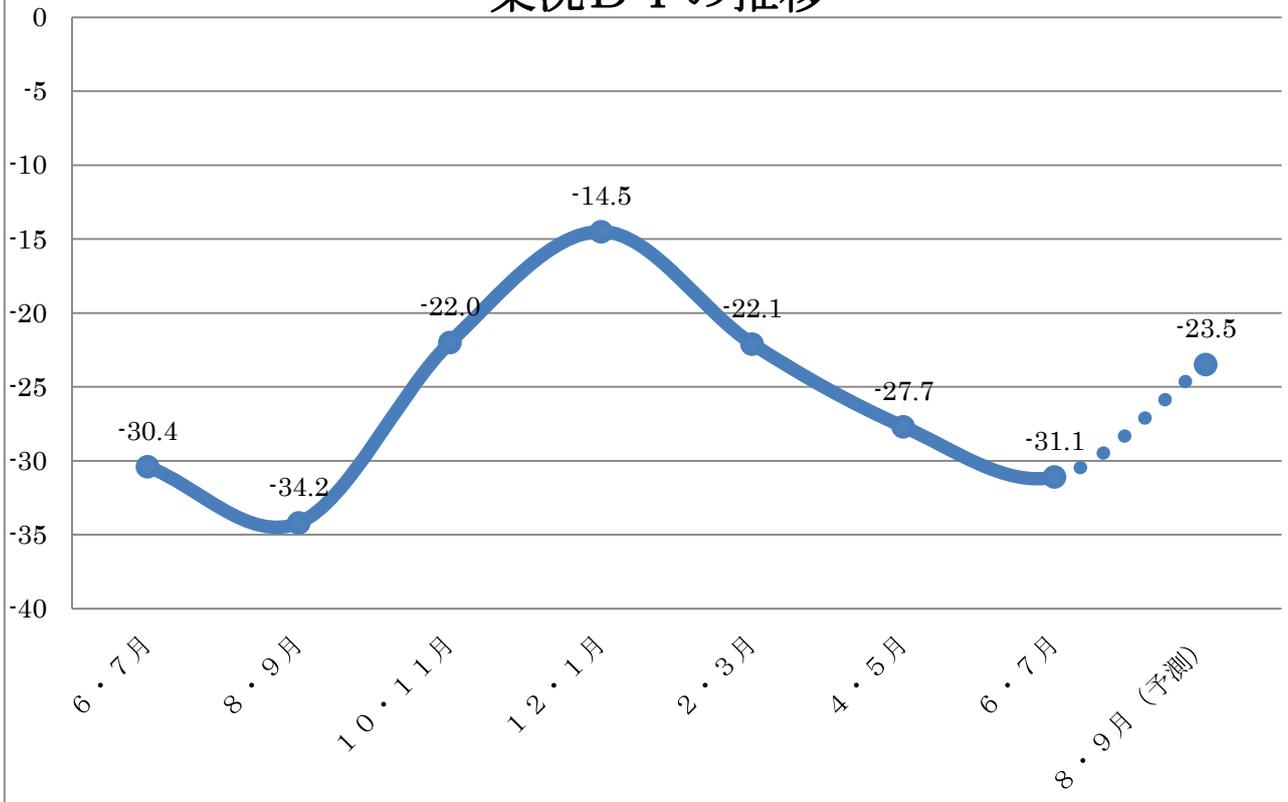
6－7月期の全業種総合業況DIは▲31.1と、前期から3.4ポイント悪化し、3期連続の業況悪化となった。前期（4－5月期）は消費税増税による影響か、業況、売上、採算、仕入単価、従業員、金融機関の貸出のすべての項目で悪化となったが、今期は売上、採算、従業員の3項目については改善した。売上は前期から3.1ポイント、採算は8.0ポイント改善している。この2項目は昨年10・11月期から2期連続で回復基調であったものが、2月の大雪で悪化に転じ（2－3月期）、消費税増税によりさらに悪化していたが（4－5月期）、3期ぶりに改善した。向こう3ヶ月間の先行きに対する見通しも、各項目ともほぼ同様の動きを示しており、売上、採算、従業員の各項目は改善を、業況DI、仕入単価、金融機関の貸出については悪化の見通しとなっている。中小企業の経営者は、増税による反動減も売上や採算面でみると緩和されつつあるが、仕入単価のコスト高、業況全体のDIは依然厳しく、本格的な景気回復にはもう暫く時間を要するとみている。

業種別では、製造業・サービス業で業況が改善し、卸売業・建設業・小売業では悪化した。製造業では、業況、売上、採算は改善に転じたが、仕入単価の高騰が常態化している（▲55.2ポイント）。サービス業については、前期調査で売上▲11.1ポイント、採算▲27.8ポイントだったものが、ともに0.0ポイントまで改善した。

卸売業では業況（▲44.4→▲47.4）、売上（▲16.7→▲21.1）とも小幅ながら悪化している。採算と仕入単価は改善しているが、ともに低い値にとどまっているところが気になる。（採算▲47.7、仕入単価▲52.6）。建設業では業況及び売上が悪化しているほか、仕入単価が高止まりし（▲94.4）、人手不足の状況が根深くある。（38.9ポイント）

小売業では今期の業況、売上、採算、仕入単価、従業員、金融機関の貸出のすべてで悪化しているが、逆に向こう3ヶ月の見通しは業況及び金融機関の貸出を除いては、改善している。売上は▲36.7→▲20.0と16.7ポイント改善しており、現状ではまだ、消費増税による買い控えの影響があるが、夏頃には回復基調に転換する見通しであるといえる。

業況D I の推移

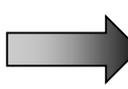


◆全業種・業種別詳細

※ D I 値 (景況判断指数) について

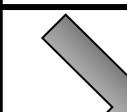
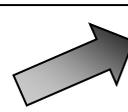
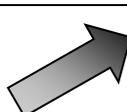
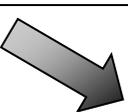
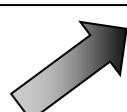
D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆指標の見方

前回D I に比べて (先行は今回実績値に比べて)		
改善	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※仕入単価D I は、仕入単価が下落した場合、「」（改善）と表示しております。
従業員D I は、従業員が不足している場合、「」（改善）と表示しております。

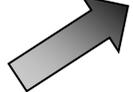
◆全業種総合

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 3 1 . 1	▲ 2 3 . 5	▲ 2 1 . 0	▲ 2 7 . 7	▲ 6 0 . 5	1 0 . 9	▲ 2 . 5

6－7月期の全業種総合の業況D I は、**▲ 3 1 . 1**（前期比**－3 . 4**ポイント）となり、3期連続での悪化となった。前期（4－5月期）は消費税増税による影響か、業況、売上、採算、仕入単価、従業員、金融機関の貸出のすべての項目で悪化となったが、今期は売上、採算、従業員の3項目については改善した。仕入単価D I は2期連続の、金融機関の貸出は小幅ながら3期連続の悪化となった。特に仕入単価は、他の項目に比べて相対的に高いマイナス水準のままであり、原価の高騰が依然として企業の採算に影響を落としていることが分かる。業況の先行きに関しては、売上、採算の改善見込みにも関わらず、悪化すると予測している。

◆ 業種別

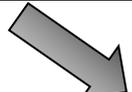
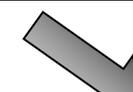
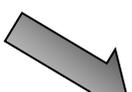
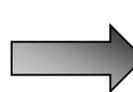
製造業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲17.2	▲3.4	▲3.4	▲13.8	▲55.2	3.4	▲3.4

前期(4-5月期)金融機関の貸出が横ばいだった他は、全D1で悪化となったが、今期は業況、売上、採算、従業員の各D1で改善した。とりわけ、売上D1は32.3ポイント、採算D1は25.5ポイントと前期比で大幅な改善となった。一方、業況の先行、金融機関の貸出は悪化に転じ、仕入単価D1は小幅ながら3期連続の悪化となった。金融貸出しD1は横ばいから悪化に転じた。

業況D1に関する今後の見通しについては、悪化を予測している。

建設業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲11.1	▲33.3	0.0	▲11.1	▲94.4	38.9	0.0

業況D1は、悪化に転じた。売上D1は2期連続で悪化となり、仕入単価は▲94.4と相対的に低い値のまま推移している。採算D1は横ばい、従業員D1は3期連続で改善となり、建設業の人手不足傾向が続いているようだ。金融貸出しD1は▲5.6→0.0と改善した。

業況D1に関する今後の見通しについては、悪化を予測している。

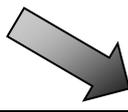
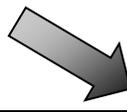
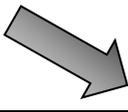
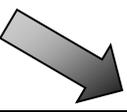
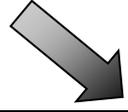
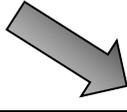
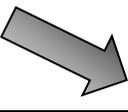
卸売業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲47.4	▲31.6	▲21.1	▲47.7	▲52.6	10.5	0.0

採算、仕入単価は改善、業況、売上、従業員、金融貸出しとも各DIは、悪化となった。業況、売上、の各DIは小幅ながら3期連続で悪化となっている。

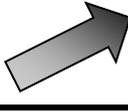
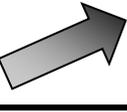
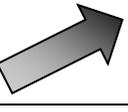
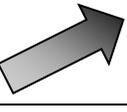
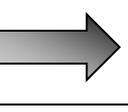
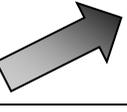
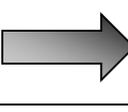
逆に業況及び売上DIに関する今後の見通しについては、10ポイント以上改善を予測している。業況▲50.0→▲31.6、売上▲16.7→0.0。

小売業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲54.3	▲37.1	▲57.1	▲51.4	▲45.7	0.0	▲2.9

業況、売上、採算、仕入単価、従業員、金融機関の貸出のすべてのDIが悪化となった。このうち、業況、売上、採算については2期連続の悪化となった。業況DIに関する今後の見通しについても、悪化を予測しているが、売上、採算、仕入単価、従業員については改善の見通しである。

サービス業

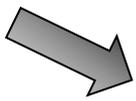
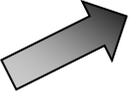
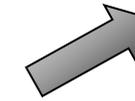
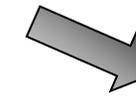
業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲11.1	▲11.1	0.0	0.0	▲72.2	16.7	▲5.6

業況、売上、採算、従業員、の各DIは改善、仕入単価、金融貸出しの各DIは、横ばいとなっている。売上、採算の各DIはマイナスポイントが続いていたが、売上は3期ぶりに、採算は1年以上続いたマイナス局面を脱した。仕入単価DIは横ばいで、依然として食材費や燃料費が高止まりしていることが分かる。

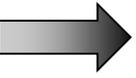
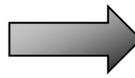
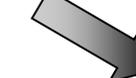
業況DIに関する今後の見通しについても、改善を予測している。

◆ 業種別詳細

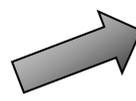
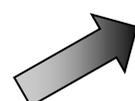
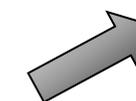
製造業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

製造業（家具）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

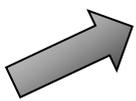
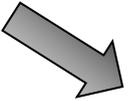
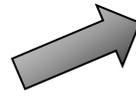
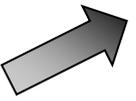
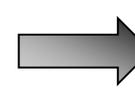
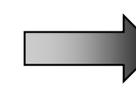
製造業（工業製品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

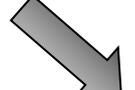
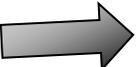
製造業（宝飾）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

製造業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

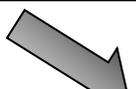
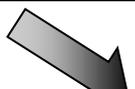
建設業（建築）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

建設業（土木）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

建設業（鉄鋼）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

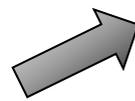
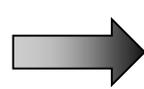
卸売業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

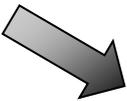
卸売業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

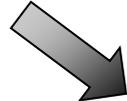
卸売業（その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

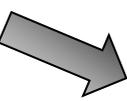
小売業（大型店）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

小売業（食料品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

小売業（事務用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

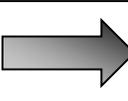
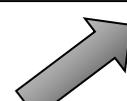
小売業（趣味・日用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

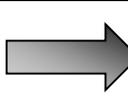
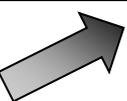
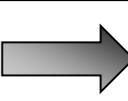
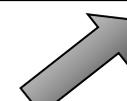
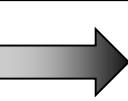
小売業（家電）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

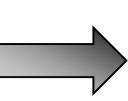
サービス（ホテル・旅館）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（観光）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（飲食その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

➤ 中小企業の声（現状や直面してる課題）

製造業（食品）

- ・4月の増税後売上は不安定。5、6月の外商、7月のお中元とも消費に元気がない。
- ・2月の大雪とバス運行に関する規制強化で、バス旅行が減少したが、新しい杜氏を迎え、品質が向上したことで、明るい兆しが見えてきた。
- ・甲州ワインの売上は上向き傾向。原料ぶどう（甲州種）の安定供給にやや懸念がある。

製造業（家具）

- ・全体として対前年比10%位落ちている。今後は2、3割落ちるとみている。アベノミクス効果によ

り仕入れコストが上がるとみている。消費税、社会保障費、円安、インフレ等の不安要因ばかり。政府は大企業よりの経済政策から、中小企業対策にもっと本腰を入れるべきである。

製造業（工業製品）

- ・半導体関連は一服感。自動車関連が急に忙しくなっている。県内の仕事は減り、県外からの仕事は増えている。山梨県では製造業中心の産業構造にしないと、県内の雇用増に結びつかない。
- ・スマホの販売台数は中国を中心に伸びている。中国現地メーカーの低価格モデルがシェアを拡大させている。世界の2大スマホメーカー1社は業績堅調だが、もう1社は成長が鈍化しており今後の動向が気になる。

製造業（宝飾）

- ・8月は盆休みもあり通常の売上は毎年落ちるが、8月末にあるJFで弾みをつけることができるかがポイントとなる。

卸売業（食品）

- ・食品（水産物）の売れ行きが悪い。消費者の節約がよりシビアになってきた気がする。
- ・円安による原価高に加え、ガソリン等のコスト高の状況だが、価格転嫁ができない。観光客は増えている。

卸売業（その他）

- ・原価の値上がりを価格に転嫁できず、採算は悪化している。

建設業（建築）

- ・首都圏の受注シフトの影響か、県内の仕事も増えている。職人の手間賃は（人手不足で）ほとんど言いなり。
- ・公共工事は全体的に低調。中部横断道関連工事は発注単位が大きくなり、県内業者のランクでは入札に参加できない状況。
- ・景気が良くなる感じは無い。

建設業（土木）

- ・現在は雪害の修理があり忙しいが、工事単価は低い。10月頃から増税前の駆け込み需要の反動で民間工事が減る見込み。公共工事に期待するのみ。

小売業（大型店）

- ・6月は降水量が昨年より多かったことや土曜日が一日少なかったこと、7月は梅雨明けが去年より16日遅れたことで好調とは言い難い月でした。

小売業（食料品）

- ・菓子業界は原材料の値上げ・消費税増税の後、売上が減少し経営が厳しさを増しています。

小売業（趣味・日用品）

- ・例年通り七夕は人出の割に来店客は少ない。常時、お客様を増やす取り組みは個店の責任。
- ・消費税増税の影響（駆け込み需要による反動減）が6月までであった。

小売業（家電）

- ・外注先のやりくりで苦労している。

- ・ 久々に夏物家電のエアコン、冷蔵庫などが伸びた。

サービス業（ホテル）

- ・ 宿泊予約は増えているが、光熱費が値上がりしている。
- ・ 9月の宿泊予約が良くない。

サービス業（観光）

- ・ 例年に比べて団体の観光客が少ない。
- ・ 7月から9月にかけてロープウェイの支柱補強工事を行う。春先からは平年並みの売上まで改善に向かっている。
- ・ 7/19から高速乗合バス「竜王・甲府～横浜線」を新規開設します。

サービス業（飲食その他）

- ・ 消費税が上がった分、売上も上がったが仕入れ単価は依然として高い（それでも最高値から比べると少し下がっている）。絶滅危惧種のウナギの輸出入が禁止になると、商売ができなくなるのではと心配になる。
- ・ この夏も暑い日が多く、本格志向のお客様が「うなぎ」を食べに来て下さり、多忙な夏となった。

建設業（鉄鋼）

- ・ 6・7月は仕事が確保できたが、8～10月は仕事が減る見込み。
- ・ 原材料、光熱費の高止まりが続いている。